

# 平成29年度事業報告書

自 平成29年 4月 1日

至 平成30年 3月31日

一般財団法人 日本健康増進財団



一般財団法人日本健康増進財団  
平成29年度事業報告書

本法人の平成29年度における事業報告は、定款第3条(目的)並びに第4条(事業)に基づき、平成29年3月14日、3月28日に開催された理事会および評議員会によって事業計画及び収支予算が決定され、平成29年4月1日から平成30年3月31日までに実施した事業とする。

【公益事業】

1. 調査・研究事業

1) 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学講座との共同研究【継続研究】

本法人による動脈弾性度の評価指標CAVI(Cardio-Ankle Vascular Index)を含む健診を5～8年間継続受診した約1万名強のデータにおいて、慶應義塾大学医学部公衆衛生学講座(研究責任者:岡村智教主任教授)との共同研究を行っている。同一の対象者を継続的に追跡し、動脈硬化を進展させるのはどのような危険因子であり、どの程度の影響を持つのか、高血圧や糖代謝異常、喫煙状況などの危険因子からの解析が進められた。この種の研究では断面研究がほとんどであり、下記の共同研究同様、このような縦断調査は稀少で重要である。

本年度は、継続受診中CAVI値が新たに9以上を示した、即ち継続観察中血管機能が明らかに低下(動脈硬化が進展)した受診者において、そうさせるのに喫煙がどの程度影響しているのかを明らかにし、平成29年度アルコール・薬物関連学会合同学術総会と第50回日本動脈硬化学会総会学術集会上に発表した。また、新たにCAVI 9.0以上が発生するのにメタボリックシンドロームがどの程度、メタボの構成要因の何がより影響するのかを明らかにし、第76回日本公衆衛生学会総会上に発表した。

○職域健診受診者における喫煙と動脈硬化性疾患発症リスクの検討: cardio-ankle vascular index(CAVI)

桑原和代<sup>1)</sup>、杉山大典<sup>1)</sup>、平田あや<sup>1)</sup>、鈴木賢二<sup>2)</sup>、岡村智教<sup>1)</sup>

1)慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 2)日本健康増進財団

○職域健診受診者における喫煙の動脈硬化性疾患発症リスクに関する検討: Cardio-Ankle Vascular Index(CAVI)

桑原和代<sup>1)</sup>、杉山大典<sup>1)</sup>、平田あや<sup>1)</sup>、鈴木賢二<sup>2)</sup>、岡村智教<sup>1)</sup>

1)慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 2)日本健康増進財団

○職域健診におけるメタボリックシンドロームとCardio-Ankle Vascular Indexとの関連

桑原和代<sup>1)</sup>、杉山大典<sup>1)</sup>、平田あや<sup>1)</sup>、鈴木賢二<sup>2)</sup>、岡村智教<sup>1)</sup>

1)慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 2)日本健康増進財団

## 2)自治医科大学内科学講座循環器内科との共同研究【継続研究】

本法人の健診に基づいて、後向き研究と前向き研究を自治医科大学内科学講座循環器内科学部門(研究責任者:苅尾七臣主任教授)と行っている。心血管疾患や加齢疾患の治療を考える上で、「血圧の変動性」や臓器障害などの関連を明らかにすることは、個別医療として包括的な視点からも重要であり、本研究は健常時から異常所見発生への変化群、さらに患者群を対象に、血圧や動脈弾性指標CAVIと心電図の波形情報を含めて、血圧変動と血管特性との関係、ひいては心血管イベント発症との関係を明らかにする研究が進められた。

本年度は、元気プラザデータでモデルを作り、当財団のデータで実証した高血圧の新たな発症を予測するモデルを論文にし、Journal of Clinical Hypertensionに発表できた。これはWorld Hypertension Leagueの機関紙でインパクトファクターが3.2と世界的に認知度の高い雑誌である。

### **Developing and validating a new precise risk-prediction model for new-onset hypertension: The Jichi Genki hypertension prediction model (JGmodel)**

Hiroshi Kanegae<sup>2)</sup>, Takamitsu Oikawa<sup>1)</sup>, Kenji Suzuki<sup>3)</sup>, Yukie Okawara<sup>2)</sup>  
Kazuomi Kario<sup>2)</sup>

1)元気プラザ 2)自治医科大学内科学講座循環器内科学部門 3)日本健康増進財団

## 3)ラテックス法によるH.ピロリ抗体価測定 of 臨床的疫学的有意性の検討

胃がんの最大原因といわれるH.ピロリ菌の感染を意味する抗体価測定において従来法よりラテックス法はその測定工程が少なく、廉価となるため、ラテックス法の有用性を立証することは学会や健診機関、医療保険者・受診者においても喫緊の課題である。それを立証することが本検討の目的である。

平成29年5月1日から1年間、当財団の上部消化管内視鏡検査受診者1000名余りを対象に行うことを予定した。検証チームは、三木理事長を中心に当財団内視鏡医6名(東京大学医学部付属病院消化器内科、慶應義塾大学医学部腫瘍センター)からなる。

上記1000名余りの内視鏡所見をゴールデンスタンダードとして、内視鏡下の所見と萎縮の度合いやがんのなりやすさを評価する京都分類の情報も加え、同じラテックス法でも異なる検査試薬である栄研化学(株)と和光純薬工業(株)の試薬を評価・検討する。それらの測定を担当する(株)LSIメディエンスを含めた3者の積極的な協力のもとに実施した。

本年度において、当該研究に同意され、検体の提供に協力してくれた受診者は男性621名、女性324名、計945名であったため、平成30年度も有意に1,000名を超えるまで継続実施し、論文にしていく。

## 4)秋田県井川町住民循環器健診における心電図並びに眼底異常等の調査・研究

当該研究は、毎年秋田県井川町主催、大阪がん循環器病予防センターや大阪大学、愛媛大学、筑波大学の協力によって行われている。当財団は井川町からの依頼によって参加し、井川町住民を対象とした健診のうち心電図と眼底検査を担当し、その異常所見発現頻度、発生要因等の調査・研究を行うものである。平成29年6月7日～15日の実働8日間、本法人の臨床検査技師3名を派遣し、1,523名の心電図と眼底検査を行った。

#### 5)「郵送による自宅健診」の検査精度に関する検討

自己採血による郵送健診の検査精度を、上腕静脈血に対して当財団が採用している「かんたん採血キット」「乾燥濾紙」と検査法・郵送法が異なり、大きなシェアを占める「DE-MECAL」を対比し、検査精度の高さを実証することで、郵送健診の社会的認知、社会的存在性の確立に資することを目的とする。対象はデータのバラツキが確保できるそれぞれ33名の当財団職員を選び、生活習慣病に関する検査13項目と前立腺特異抗体PSA検査、ペプシノゲン検査とピロリ抗体検査を実施した。なお、本検討には、栄研化学㈱および「DEMECAL」販売元の㈱リージャー並びにLSIメディアエンスの全面的な協力を得ている。

その結果、両社とも上腕静脈血での測定値と0.98以上の相関係数を示し、検査精度の高さを認めたが、いくつかの問題点も認められ、両社に改善を求めた。

## 2. 研究助成及び研究委託事業

### 1) 研究助成

研究助成は、昭和53(1978)年度に始めて40年が経過し、累計225件、約2億円強の助成を行っている。

今回も、生活習慣病等の予防に関する研究を行う個人・団体・研究機関に対して、本法人の「生活習慣病予防に関する研究助成取扱要領」に基づき、研究助成をホームページで公募し、14件の研究助成申請を受けた。この14研究課題を審査するため平成30年2月20日(火)に研究助成選考委員会を開催した。

全選考委員に5点満点の採点を事前にしていただき、その合計点で上位から抽出し、「研究助成運営細則」に基づく選考委員会で検討の上決定した。その結果、以下5件(助成総額450万円)が本年度の対象に選ばれた。

#### (1)研究課題番号2906「実臨床における家庭血圧予後予測の研究」

研究助成金100万円

研究代表者:水野 裕之(自治医科大学内科学講座循環器内科学部門教授)

#### (2)研究課題番号2908「潜在的慢性腎臓病患者に対する人工知能を活用した受療行動介入プログラムの開発と検証」

研究助成金80万円

研究代表者:福間 真悟(京都大学大学院医学研究科特定准教授)

(3)研究課題番号2909「内視鏡検診の2次読影における人工知能(AI)による胃がん拾い上げシステムの応用実験」

研究助成金100万円

研究代表者:平澤 俊明(がん研有明病院消化器内科副部長)

(4)研究課題番号2911「サルコペニアバイオマーカーとしての血清クレアチニン—シスタチンC比の役割」

研究助成金80万円

研究代表者:常田 孝幸(富山通信病院内科主任医長)

(5)研究課題番号2914「地域高齢住民における血管機能と認知症およびフレイルの関連」

研究助成金90万円

研究代表者:大山 善昭(群馬大学医学部附属病院臨床試験部助教)

### 3. 健康増進および疾病予防に関する啓蒙活動事業

#### 1) 季刊誌『いきいき健康だより』の継続的発行

前年に引き続き、職場と家庭の健康管理に資する情報誌「いきいき健康だより」を平成29年4月(第34号)・7月(第35号)・10月(第36号)・平成30年1月(第37号)と年4回、1回当たり1,000部を発刊し、受診者および健康保険組合等に無料頒布した。

主な内容は下表のとおり

執筆者	テーマ
一般財団法人日本健康増進財団 リサーチ・フェロー 行方 令 先生	日本人の健康にアメリカからのメッセージ ----- 各号の内容 ① シアトル日系人健康調査からの教訓 ② 動脈硬化の原因といわれる血清脂質を日米で比べると…? ③ どのような要因が血清脂質のレベルに影響しているのか
独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 産業疫学研究グループ部長 高橋 正也 先生	働きがいと健康な睡眠 ----- 各号の内容 ① 「交代勤務」の見直し ② 仕事のストレスと睡眠 ③ 仕事のストレスの見直し ④ 本特集のまとめと今後の課題

#### 2) パンフレットおよび小冊子等の頒布

厚生労働省の生活習慣病予防対策事業の趣旨に沿い、特にメタボリックシンドロ

ームに着目した保健指導の一環として、疾病の予防、生活習慣の改善に必要な関係パンフレットや小冊子を受診者や各健保組合・団体に約10万部余り無料頒布した。

### 3) 講演会等の実施

① 健保組合や事業所を対象に、「胃がんリスク層別化検査、その費用対効果」と題して講演会を開催

・演題1 胃がん検診「胃がんリスク層別化検査」の現状

講師 三木 一正(認定NPO法人日本胃がん予知・診断・治療研究機構 理事長  
一般財団法人日本健康増進財団 代表理事)

・演題2 「神戸製鋼所健康保険組合における実例報告」

講師 木村 秀和 先生(社会医療法人神鋼記念会神鋼記念病院健診センター長)

・日 時 平成29年10月24日(火) 14:00～16:30

・場 所 シダックスカルチャーホール(渋谷区神南1-12-10)

・参 加 健保組合35ヶ所, 事業所30ヶ所, その他14ヶ所 計135名

② 健康管理面における知識の普及を図るため、株式会社フジタで新入社員を対象に講演会を開催

・演 題 「健康管理について一健やかな体、しなやかな心で会社生活を踏み出そうー」

① イントロダクション

② 新入社員の健康心得

③ タバコによるタール汚染度のチェック

③ 心の健康(メンタルヘルス)

講師 宮垣武司 当財団健康支援室長

・日 時 平成29年4月11日(水) 13:00～

・場 所 TKPガーデンシティ秋葉原

## 【収益事業】

### 1. 一般健康診断、生活習慣病健診事業等

注:( )は前年度の人数

#### 1) 生活習慣病健診

各企業・健康保険組合・団体等の健康づくりと生活習慣病の予防を目的とした健診を巡回および施設内健診として、本年度も全国的規模で98,942(98,998)名に実施した。

#### 2) 労働安全衛生法に基づく健康診断

定期健康診断や雇用時健康診断等の一般健康診断、じん肺や有機溶剤等の特殊健康診断、VDT作業健康診断等の行政指導による健康診断などを全国的規模で延べ146,314(124,022)名に実施した。

#### 3) 特定健康診査・特定保健指導

高齢者医療確保法に基づく特定健康診査を125,594(122,744)名に実施した。

#### 4) 郵送法による自宅健診

検査精度が確認できている検査に限り、郵送法による自宅健診として検体の自己採取による大腸がん検査、ペプシノゲン・ピロリ抗体(胃がんリスク層別化)検査、前立腺がん検査、子宮頸がん(細胞診, ヒト・パピローマ・ウイルス)検査ならびにクール便による「かんたん健診」(脂質・肝機能・腎機能・HbA1c等13項目の血液検査と尿検査、自己測定による血圧や身長・体重・腹囲)と生活習慣調査を、各健保組合・企業・商工会議所(中小企業)等に対して、疾病の早期発見と予防を目的として、延べ42,042(42,738)名に実施した。

#### 5) 動脈硬化度検査

メタボリックシンドロームにより引き起こされる動脈硬化性疾患の予防対策として、その主要な要因の1つである血管機能の低下が測定できる動脈硬化度検査(CAVI)を22,116(23,994)名に実施した。

#### 6) 消化器健診

上部消化管疾患の早期発見と予防を目的として胃部レントゲン検査を、11,950(11,561)名に実施した。

#### 7) 肝炎健診

B型・C型肝炎健診を15,636(14,598)名に実施した。

#### 8) 各種超音波検査

中高年における各臓器病変の早期発見と予防を目的として、腹部(肝臓、腎臓、脾臓、胆のう・胆管)、乳腺超音波検査を延べ24,195(21,731)名に実施した。

#### 9) その他の検査

巡回健診及び施設内健診において、以下の検査を実施。

- ・免疫学的便潜血反応検査(大腸がん検査): 68,079(64,860)名
- ・喀痰細胞診: 1,519(1,939)名
- ・子宮頸部細胞診: 3,513(2,344)名
- ・腫瘍マーカー: 32,877(30,074)名
- ・前立腺PSA検査: 27,957(26,021)名
- ・マンモグラフィ: 646(683)名

#### 10) 労災2次健診

労災2次健診とその保健指導を健診センターにおいて、18(47)名に実施した。

#### 11) 日帰り人間ドック

各健康保険組合との契約に基づく日帰り人間ドックを健診センターにおいて、1,252(1,162)名に実施した。

#### 12) 胃がんリスク健診

血液による胃がんリスク健診を3,834(3,978)名に実施した。



### 13) 上部消化管内視鏡検査

上部消化管内視鏡検査、いわゆる胃カメラは平成27年5月から開始し、本年度は1,751(1,453)名に実施した。

### 14) 保険診療

診療所において、保険診療・自費診療を含め延べ940(877)件の診断・治療等を実施した。

### 15) ストレスチェックの実施

平成27年12月に施行された改正労働安全衛生法によるストレスチェックを9,461(9,336)名に実施した。

## 2. 受診率向上・重症化予防システムの継続的实施

今や受診率向上、重症化予防等による医療費適正化は健保組合を初め、全医療保険者に課せられた大掛かりな課題である。そこで、健診受診後の異常所見者に適切な医療機関が用意され、受けやすい環境が整備された健診は、医療保険者・受診者・健診機関・医療機関にも大きなメリットが期待できる。また、そのような健診システムが認識されることで受診率の向上にも繋がっていく。

当財団は、首都圏において全国土木建築国保組合の多くの被保険者・被扶養者が受診しているため、健診による異常所見者がその結果をそのまま放置せず、適正医療を受けるように、個人結果表に受診勧奨のコメントを出力、全国土木の直営総合病院である厚生中央病院への紹介状を同封し、有所見者がご自身の健康状態を受け入れやすく、理解しやすい、適切な保健行動が取りやすい個人結果表を、また厚生中央病院を予約・受療する際にしやすさ、利便性等に関して、双方がさらに改善を図った。

これは全国土木国保組合と厚生中央病院の了解のもとで行われており、それ以外の健保組合や事業所等の受診者にも適用している。平成29年度は12,663名の紹介状を発行した。その返書(診断名等医療情報)をもって、健診結果に基づき適正受療が行われたか、その結果はどうだったのかなどを把握し、重症化予防策の1つとして全国土木等各健保組合に報告した。

これらをさらに全国展開するため、全国の医療機関のネットワーク化を開始した。

## 3. 健康相談・保健指導事業

### 1) 健診後の健康相談等

健診先事業所に医師を派遣し、健診結果に基づく個別の健康相談等を行った。

健康指導日	指導医	実施先
平成28年6月13日	荒井親雄診療所長	川口商工会議所
平成28年9月22日	荒井親雄診療所長	柏商工会議所

## 2) 電話による健康相談等

本法人の健診受診者が健診結果の内容をより理解し、自分の健康に関するセルフケアができるよう「健康支援室」を常設し、電話による健康相談・保健指導等を実施している。本年度は延べ290(318)名(男性129名、女性161名)に実施した。主な内容は、例年同様、受診科や再検査、検診結果などが多かった。従来、健診結果に基づいてどこの病院で何科を受ければよいかとの問合せが多く、今回厚生中央病院と当財団双方の改善によって、この点の問合せが明らかに減少した。

## 3) 特定保健指導

本法人が実施した特定健康診査の受診者を対象に、各健保組合等との契約に基づく特定保健指導を106名に実施するとともに、その結果を各事業所に報告した。受診者が生活習慣の改善に努めた結果、体重・腹囲・HDLコレステロール値・血糖値に改善が見られるなどの効果を得た。当財団の改善率は49%、脱落率は1名と非常に少ない。健保連の報告による改善率は18.5%

## 【内部統制・管理】

### 1. 組織の強化

これまでは臨床検査技師を初めとする医療スタッフを、健診センター拡充に合わせて充足してきた。本年度は、医療の専門スタッフ以外の人材の確保ならびに教育について手立てを行った。

#### 1) 健診スタッフ構成の新たな試み

##### ① 健診マネージャーの採用

他の健診機関で10年以上健診マネージャーとして勤務していた者を、本年度から当財団の職員として迎い入れた。半年間は当財団の健診のやり方を学ぶ期間とし、その間も現場運営の問題点や改善点などを報告するよう命じた。外部経験者から見ると、当財団の健診は日程的にも人員的にも余裕があると指摘する。確かに精度に厳しい基準を置いている当財団では、他機関が心電図検査で行っている2つのベッドを1人の検査技師が担当する体制などは取らない。基線の揺れのないきちんとした波形をとるまで妥協しないのが現場のルールとなっている。また、それだけの技術も持っている。その意味では、処理する人数が限られてしまうが、正確度の高い結果を保証するには譲れないところである。他にも各検査での丁寧な対応は、効率面からは問題となるが、受診者の不安な気持ちに寄り添うことが健診現場での姿勢とされている。

ただ反省すべき点もある。採血の手技は他の健診機関に比べて、事故数の少ないことからレベルは上位にあるといえるが、速さという点では、劣ることになり、自分では無理と感じた時にすぐに先輩や同僚に交代するという判断が遅れたり、翼状針を使うといったことをしないなど改善の余地がある。このように課題はほぼ抽出で

きた。

この健診マネージャーの意見を多くの職員に共有してもらうために、誰でも閲覧可能な共有サーバーに報告ファイルを置いた。また、健診の在り方を考える検討会も設け、当財団の伝統と誇りに則りながら、効率的な健診が可能となる方策を探っている。

## ②登録スタッフ(パートタイム)の採用

身体検査や聴力検査のような資格を要しない検査をパートタイムで賄うことで人件費を抑える目的で公募し、当初50数名の登録を得たが、1年経過した現時点では36名に絞られている。この9割は主婦であり、多くの日数を働けない制約の中で健診業務を選択して従事してくれている。多くが驚くほどの経歴の持ち主で、仕事への意識も明らかに高い。実際、健診メンバーにこの登録スタッフを組み込んで実施しているが、評価は良好である。

現状、まだ人件費削減の効果は見えていないが、登録スタッフの信頼度が増していけば、完全に検査技師を他に回すことが可能となり、スタッフ配置も効率化できる。

## 2)人材の育成と確保

本年度は健診事業部の営業職に1名中途で採用した。当財団をよく知る外部からの推薦で、大手企業に勤務した後、ベンチャー企業で営業部長を務めた経歴の持ち主である。現執行部以前の営業において全く欠如していたマーケティングの考え方をしっかり持って、これまでの人脈を使った、新しい特定保健指導のプロジェクトを立ち上げたり、官僚や大手企業経営者などが購読する「時評」という雑誌に、当財団の三木理事長の数ページに及ぶ記事(胃がんリスク層別化検査の社会的意義)を掲載させた。

当財団の職員に対して、専務理事が言うところの「インディペンデンスたれ」を身につけさせるために、執行部や健診事業部長が各々で、時間を調整して職員数名を集め、今自分が何をなすべきかを考える場を作って働きかけてきた。執行部が直接、個々の職員と接することで、その行動や考え方を把握し、人を活かせる公平な評価をくだすよう努めてきた。

人事評価に関しても、今当財団が大きな変化への過渡期であることに即した、人事考課表に発展させたいと考えている。

## 3)職員教育の実施

①本年度は一般職を対象にした研修を実行した。デロイトトーマツが主催している定額制セミナーを採用して、係長以上の29名が受講した。次長2名には「ビジネスリーダー研修」、課長8名には「リーダーとしてのセルフマネジメント」(2名)、「管理職のための部下育成シリーズ<時間力>」(1名)、「部下を持つ管理職のためのコーチング」(1名)、「【管理職向け】アクションプランの立て方」(1名)、「人事・総務部課

長の役割と実務」(1名)、「マネジメント(PDCA)/仕事の動機づけ」(1名)、「【管理職向け】PDCAの回し方」(1名)を受講させた。同様に課長代理、係長等にその職位、役割に相応しい内容を選択して受講を促した。受講前に所属長または総務部長が各人と面談し、受講内容の基本的な考え方をレクチャーして意識づけることをした。受講後はWEBシステムで本人が確認テストを行って知識の定着を図った。受講後、課長以上は執行部並びに健診事業部長の前で、自分が受けた講義の内容をプレゼンするというところを行った。セミナーは単に聞いてきたことで満足してしまいがちだが、その後人前で受講内容を自分がプレゼンするとなると、受講する姿勢そのものが違ってくる。いわゆるアクティブラーニングの手法を採用した。その後の会議や打合せの折に、今までにはそんなこと言わなかったようなビジネスパーソンとしての発言を耳にすることが増えたと多くの職員が感じている。この研修のやり方が職員の意識変化に好影響をもたらしている。

- ②平成30年1月27日、日本総合健診医学会第46回大会に、当財団職員2名が発表した。1題は健診課から「2008・2016年度におけるメタボ健診項目値の推移に関する疫学的検討」と題し、メタボ健診が始まってから8年後の健診結果を各項目で比較し、ほとんどが有意に低下していたことを報告した。これは、座長の推薦を得て論文にすることが求められる評価を得た。また、内視鏡室から「内視鏡室立ち上げ1年間で見えてきた課題—受診者アンケートから」と題して発表した。受診者からの指摘や意見を受けて、それにスタッフがどう取り組んできたのか、検査中のタッチングが受診者に安心を与え、また看護師の技術力を均一化することの重要性などにも多くの方々から、その必要性に共感したという声をいただいた。

さらに2月4日、東京都臨床検査技師学会で「2011年度におけるメタボ健診に関する疫学的検討」と題して発表した。15,436名の大量データで分析され、メタボリック症候群の基本条件である腹囲やBMIが該当しない受診群にも、その要因であるコレステロールや血糖などの高い人たちが多く存在することを明らかにし、その人達への保健指導の必要性を報告した。

このように平成29年度において3名の発表が行われ、当財団のプレゼンス向上と職員の誇りを醸成することに寄与した結果となった。

## 2. 健診システムの整備

### 1) 遠隔診断システムの導入

レントゲン写真遠隔読影システムを導入した。撮影した写真をクラウド上に置き、インターネットを介して読影医は自宅に居ながら読影できる。また、レポートイングシステムを使って読影した所見を読影医がその場で入力するので、今までのような専門知識を持った専従職員でなくても、一般職でも作業可能となった。さらに、過去の写真との比較が可能となるため、より精度の高い判定が確保できるようになる。

## 2) 総合健診システム「ヘルゼア」と従来システムとの統合

本年度は健診データの処理システムを今後どのようにすべきかを検討するため、に3つの検討部会を立ち上げた。データのコード体系を決める部会(契約情報、検査コース、個人識別番号、事業所コード等)、各種帳票に関する部会(従来の帳票の見直し、新しい個人結果票の在り方等)、健診現場でのIT化(受付や採血の発注をシステム化、身長・体重・視力・聴力・血圧等の自動入力化など)、これら3部会を定期的に行い、進捗状況を共有サーバーに置き誰でも閲覧できるようにした。多くの建設的な意見により具体的な構想にまとめられ、1月から3月までの日立との要件定義の中で、ヘルゼアの拡張と当財団の独自システムの役割の分担を確認するに至った。

ヘルゼアを基幹システムとして運用するが、これまでの顧客との関係から従来行ってきた情報処理に関するサービスを低下させることはできないし、当財団の独自の開発に自由性を確保しておく必要があるため、当財団の従来のシステムをサブシステムとして、さらに進化させることのほうが有益と考え、準備を進めた。

## 3) デジタル胸部レントゲン検診車の導入

宝くじ協会の全額助成によるデジタル胸部レントゲン検診車(4,644万円)が、平成29年度の事業として導入できた。これで、平成25年度と平成27年度の宝くじ協会によるデジタル胃部・胸部併用レントゲン検診車導入と合わせると合計3台になった。従来委託していた健診が自前でできるなどのため、大きな経済性が期待できる。

## 3. 総合精度管理事業

### 1) 技術面からの精度管理の実施

当財団の健診の確かさを担保するために、各検査(エックス線検査、心電図検査、生化学的検査、血液学的検査、尿・糞便検査および生物学的モニタリング検査)の精度が十分確保されていることを確認している必要がある。そのために、評価法の異なる公益社団法人全国労働衛生団体連合会(全衛連)と日本総合健診医学会が実施している総合的な精度管理事業に参加した。

#### (1) 外部精度管理

##### ① 全衛連による精度管理事業への参加(各総合評価:良好)

平成29年 7月 エックス線写真(間接・直接)に関する精度管理調査

平成30年 2月 労働衛生検査(鉛・有機溶剤に係る生体試料検査)

平成30年 3月 臨床検査(総コレステロール, 中性脂肪, HDL・LDLコレステロール, 尿酸, クレアチニン, AST, ALT,  $\gamma$ -GTP, 血糖, ヘモグロビンA1c, 白血球数, 赤血球数, ヘモグロビン, ヘマトクリット, 血小板並びに尿糖・尿蛋白・尿潜血検査)

②日本総合健診医学会による精度管理事業への参加(各総合評価:良好)

平成29年 4月 第1回精度管理調査(胸部単純X線, 心電図)

平成29年 5月 第2回精度管理調査(総コレステロール, 中性脂肪, HDL・LDLコレステロール, 尿酸, クレアチニン, AST, ALT,  $\gamma$ -GTP, 血糖, ヘモグロビンA1c, 白血球数, 赤血球数, ヘモグロビン, ヘマトクリット, 血小板, 尿糖・尿蛋白・尿潜血検査)

平成29年 8月 第3回精度管理調査(総蛋白, アルブミン, ALP, LDH, A/G, クレアチニン, 尿素窒素, 尿酸, CRP並びに便潜血検査)

平成29年10月 第4回精度管理調査(第2回精度管理調査の項目と同じ)

(2)内部精度管理

①委託検体検査センターの精度管理

血液検査の委託先(LSIメディエンス)に対し、職員の定期健康診断の際に同意の得られた職員、各検査値にバラツキのある30名の血液検体を2分割し測定を依頼した。その結果、全ての項目で統計的に高い相関と極めて小さな分散を示し、当該検査センターにおける精度管理の正確性が確認できた。

依頼項目:総コレステロール、中性脂肪、HDL・LDLコレステロール、AST、ALT、 $\gamma$ -GTP、空腹時血糖、HbA1c、赤血球数、白血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリット、計13項目

②全衛連等による健診業務全般(基本的・技術的事項)の研修会等への参加

- 全衛連 超音波検査技術研修会 1名
- 全衛連 生理機能検査研修会 1名
- 全衛連 特殊健康診断研修会 2名
- 全衛連 健康診断施設職員研修会 4名
- 全衛連 選別聴力検査研修会 10名
- BML 安全採血セミナー 8名

③腹部・乳腺超音波検査における各大学での臨床実習

- 東京女子医大学病院 6名、延べ225日間
- 東邦大学医療センター大森病院 4名、延べ75日間

2)知識面からの精度管理の向上と教育研修

①健診課臨床検査技師における勉強会

心電図やCAVI検査に関して、健診部安部主幹(前東邦大学医学部大森病院技師長、元東京都臨床検査技師会副会長)が用意した関連文献を事前に配布して5回実施した。また、関連事項の問題集を作成し、参加者にその解答と解説を行い、スキルアップを図った。

また、外部の勉強会に参加した場合、その内容を参加できなかった多くのス

タッフのために、内部勉強会として本人が講師としてレクチャーするなど切磋琢磨する環境が作り上げられてきた。

これらの勉強会による知識のレベルアップやスキルアップは、健診会場で緊急的な異常所見を見つけた時、受診者が通常のルートによって健診結果を手にする期間を待つことなく、その場で健康管理室や受診者本人に注意を促すことができる。健診業務を行う上で、当該事例への的確かつ迅速な対応は必須である。

## ②関連医学会、検査医学会、セミナー、講習会等への参加（主なものを記載）

- 平成30年1月 ・中央労働災害防止協会「心の健康づくりシンポジウム」  
特定保健指導セミナー  
ー第3期特定保健指導実施に向けて；今までの保健指導と何が変わるのか？ー
- 平成29年12月 ・渋谷区医師会胃内視鏡講演会  
・東京都胃内視鏡検診講習会
- 平成29年11月 ・第3回がん撲滅サミット  
ー今、日本から始まったがん撲滅への挑戦ー
- 平成29年10月 ・第79回日本消化器内視鏡技師学会  
～超高齢社会における内視鏡技師の役割～  
・シリーズ：生活習慣病の1次予防を考える  
～健やかな高齢者社会を目指して、今できること～健康経営の視点から～
- 平成29年9月 ・中央労働災害防止協会・産業保健フォーラム  
・第17回首都圏ラボラトリーフォーラム  
ー採血業務・神経損傷予防・VVR予防のポイント・対処法ー  
・子宮頸がん検診従事者講習会  
ー子宮頸がん検診の精度管理の考え方ー  
・大腸がん検診従事者講習会  
ー便潜血による大腸がん検診の現状と課題ー
- 平成29年8月 ・第58回日本人間ドック学会学術大会
- 平成29年7月 ・LSIメディエンス研修会  
ー「病気の芽を摘む！検診でできる疾病予防の最前線」  
・第3期特定健診・特定保健指導の円滑な実施に向けた説明会  
ー平成30年度からの特定健診・特定保健指導の円滑な実施に向けてのポイントー  
・第23回日本ヘリコバクター学会学術集会  
・第20回日本高齢消化器病学会総会

- 平成29年6月 ・「人間ドック健診情報管理指導士研修会」  
                   —特定健診・特定保健指導第3期改訂ポイントと保健指導の在り方—
- 平成29年5月 ・日本産業衛生学会「産業保健近未来図」  
                   ・第93回日本消化器内視鏡学会総会
- 平成29年4月 ・日本放射線技術学会総合学術大会  
                   ・第114回日本内科学会総会  
                   ・第103回日本消化器病学会総会

### 3) 検体検査センターにおける「外部精度管理」の実施状況と結果の把握

血液検査を委託している検体検査センターにおける外部精度管理(日本医師会日本臨床衛生検査技師会、日本衛生検査所協会等の臨床検査精度管理調査)の実施状況とその結果を把握するため、各委託機関にその報告を求めた。その結果、いずれも良好であった。

### 4. 全衛連労働衛生サービス機能評価における自主監査

労働安全衛生法に基づく各種健康診断が適切に実施できる機能を有し、精度管理の優良な健診機関であることを評価する全衛連労働衛生サービス機能評価委員会の「労働衛生サービス機能評価」の認定を受けている。その規程に基づいた自主監査を平成29年10月31日に実施した。自主監査後の検討会を行い、監査で気付いたこと、提案されたことをもとに標準作業書を改めるなど、指摘された改善点は後日速やかに改善措置が取られた。

### 5. プライバシーマークに基づく自主監査と認定更新

年1回の自主監査が義務づけられていることから、平成30年1月26日に実施した。その結果軽微な改善点が見られたが、概ね適切であった。その改善点は後日速やかに改善措置が取られた。

また、個人情報保護マネジメントシステムの規程に従って、年に1度の全職員を対象とした個人情報保護教育研修や新人職員を対象とした研修も実施した。

2回目の更新実地審査を平成29年5月24日に受けた。指摘事項としては、軽微な内容で数項目が挙げられた。主に書式や要求事項に関する解釈の問題といった点であり速やかに対処して改善案を提出し、平成29年7月12日に認定を完了した。

### 6. 平成29年度役員会等に関する事項

#### 1)「理事会議事事項」

##### (1)通常理事会

開催年月日:平成29年6月13日 10:00～

議事事項:① 平成28年度の事業報告の承認について	可決
② 平成28年度の計算書類等の承認について	可決



- ③ 平成28年度公益目的支出実施報告の承認について 可決
- ④ 評議員会の招集について 可決
- ⑤ 報告事項:業務執行理事の職務の執行状況報告

理事現在数6名, 議決理事数6名

(2) 臨時理事会

開催年月日:平成29年7月11日 13:30～

議事事項:① 代表理事等の選任に関する件 可決

理事現在数8名, 議決理事数8名

(3) 通常理事会

開催年月日:平成30年3月13日 13:30～

議事事項:① 平成30年度事業計画(案)に関する件 可決

② 平成30年度収支予算(案)に関する件 可決

③ 評議員会の招集に関する件 可決

④ 報告事項

理事現在数8名, 議決理事数8名

2)「評議員会議事事項」

(1) 定時評議員会

開催年月日:平成29年6月27日 13:30～

議事事項:①平成28年度の計算書類等の承認について 可決

② 任期満了に伴う理事・監事の選任について 可決

③ 任期満了に伴う評議員の選任について 可決

④ 報告事項:業務執行理事の職務の執行状況報告

評議員現在数7名, 議決評議員数6名

(2) 定時評議員会

開催年月日:平成30年3月27日 13:30～

議事事項:①平成30年度事業計画(案)に関する件 可決

②平成30年度収支予算(案)に関する件 可決

③報告事項

評議員現在数7名, 議決評議員数7名

#### 事業報告附属明細書

平成29年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。